

IT-1 システム開発における品質マネジメントの改善 9/4 13:10 プロセスQA手法を用いた品質マネジメントの改善

株式会社日立システムアンドサービス 品質保証部
技師 横山 和彦

【セッション概要】 システム開発では、開発プロセスやマネジメントプロセスでの問題により、プロジェクトに混乱を起すことが多い。当社のプロジェクトでも様々な要因によるプロジェクトの混乱から、下流工程での問題発覚や本番後にシステム障害が発生するケースがあった。それら混乱ケースの要因を分析し、問題が多いマネジメントエリアと開発工程との相関関係を紐解き、全工程に影響を及ぼしていた品質マネジメントの改善を行った。本セッションでは、当社における品質マネジメント手法の改善例とその効果について紹介する。

【講演者略歴】 1986年コンピュータシステムエンジニアリング(株)入社。ソフトウェア品質保証業務に従事。1999年日立西部ソフトウェア(現株式会社日立システムアンドサービス)入社。損保・産業系個別受注システムの品質保証業務に従事。PMP®

IT-2 慢性的工数不足のソフトウェア開発プロジェクトの立て直し 9/4 14:15 仮説検証によるメトリクスを使った短期改善手法

パナソニック アドバンステクノロジー(株) エンジニアリングセンター
チームリーダー 川崎 雅弘 

【セッション概要】 大規模組み込みソフトウェア開発の一部を担当するソフトウェア開発プロジェクトの立て直し事例を紹介する。テスト工程に入り、予定以上に発生したバグ対応に追われていた。バグが多い根本原因を明らかにするため、まずはメトリクスを使った仮説検証による改善手法により、短期間で改善を行い、バグ対応の効率化を図った。これにより、手直しから予防への転換を実現し、目標を達成した。加えて、現場の改善意識を生んだ。

【講演者略歴】 1991年入社。AV機器などの組み込み系のソフト開発に携わる。複数のプロジェクトのプロジェクトリーダーを担当。その後、CMMをベースとし社内全体のプロセス改善活動を推進。現在、エンジニアリングセンター プロセス革新チーム チームリーダー。PMAJ認定PMS

IT-3 ソフトウェア開発へのなぜなぜ5回の適用 9/4 15:35 真の原因を求めて

TIS株式会社 カード第1事業部部付
榊 恵理子

【セッション概要】 原因がわかれば手を打てる。しかし、システム開発プロジェクトの現場では、真の原因がわかっていないにも関わらず、対策を打っているケースがしばしば見受けられる。そこで、「なぜなぜ5回」を適用し、真の原因に近づくことができた。その経緯および方法を報告する。
1. 「なぜなぜ5回」の有効性の検証
●より説得力がある解決策を立てられる ●問題への対策に漏れが発生しない
2. 分析を成功させるための原理原則
「よい分析結果」を導くためにどのような点に考慮すればよいかを、ノウハウとしてまとめた。

【講演者略歴】 1987年TIS株式会社(旧社名東洋情報システム)入社。数年間、通信系システム開発を担当。生産技術部に異動後、約10年間、開発標準/PM標準策定およびPM育成などPJマネジメント関連テーマを担当。5年前から事業部系部付スタッフとして、PJ管理支援、事業部施策推進などを担当。

IT-4 トラブルを防ぐITプロジェクトの契約マネジメント 9/4 16:40

株式会社日本総合研究所
法務部長 大谷 和子

【セッション概要】 情報システムの信頼性確保の観点から、モデル取引・契約の策定などIT取引可視化の試みが続いている。工程単位でのリスクアセスメントを可能とする多段階契約、工程の特性に応じた契約形態の選択、当事者の役割分担の取り決め、知的財産権の帰属など契約マネジメントの勘所に関するモデル取引・契約の考え方を紹介する。また、これらの考え方を踏まえ、ユーザ、ベンダともに取り組むべき課題を検討する。加えて、近年のIT関連裁判例に即してトラブル解決の糸口となる契約マネジメントの在り方を提言する。

【講演者略歴】 1996年より株式会社日本総合研究所法務部長(現職)。法とコンピュータ学会理事。総務省情報通信審議会委員。知的財産戦略本部専門調査会委員。経済産業省「情報システムの信頼性向上のために取引慣行・契約に関する研究会」委員。社団法人情報サービス産業協会契約部会長。

PA-1 P2Mに関わる問題構造化へのシステムズアプローチ 9/4 13:10

青山学院大学 総合研究所
客員研究員 梅田 富雄

【セッション概要】 プログラムマネジメントに関連して、経営戦略に合致した統合的なプロジェクト計画・遂行に対する伝統的なシステムズアプローチを可能にするために、複数のサブ問題を含む問題構成から適切な課題設定にいたる問題構造化が必要である。ここでは、プロジェクトマネジメントとシステムエンジニアリングについて概観し、主としてエンジニアリング業務に焦点を当て、問題の構造化について、プロファイリングの結果をプロジェクトの目的と制約条件に結びつけ、システムズアプローチを可能にする方法について述べる。

【講演者略歴】 1958年東工大化工卒、千代田化工入社、プロセス技術部長、エンジニアリング本部副本部長、技監などを歴任、1989年退職、同年筑波大学社会学系教授、1995年千葉工大工業経営学科、PM学科教授、社会システム学部長を経て2003年定年退職。2002年度PMP学会長。現在青学大客員研究員。

PA-2 沖縄IT業界の課題とP2M研究会活動 9/4 14:15 地域PM人材の育成を目指して

沖縄P2M研究会
林 秀雄、屋比久 友秀

【セッション概要】 平成20年4月、沖縄においてPMS合格者を中心とするP2M研究会が発足した。研究会活動を通じてP2M理解を深め、「①プロジェクトマネージャー能力の向上を図る、②プロジェクトマネージャー間のネットワーク形成を通じてビジネスへの波及を図る、③プロジェクトマネージャーとしての主体的な行動トレーニングの場を提供する」ことを目的として研究会は運営されている。沖縄におけるIT業界の現状と課題の報告と同時に、同県におけるITビジネス振興を産学で図るためのプロジェクトマネージャー育成の活動を紹介する。

【講演者略歴】 ■林 秀雄：1971年早稲田大学理工学部卒業。日本ユニバック(現日本ユニシス)入社。金融機関のシステム開発・SEサービスに長年従事。1983年MBA取得。2004年(株)国際システム社長。■屋比久 友秀：1998年東京理科大学理学研究科物理学専攻修士了。同年(株)OCC入社。現在、OCC新技術支援部部長。

PA-3 IT基盤サービス品質を確保するための効果的な 9/4 15:35 プロジェクトマネージメント

ユニアデックス株式会社 サービス事業グループ
NSB統括部インフラデザイン室 室長 恩地 政市

【セッション概要】 ITサービスをコアビジネスとする弊社にとって、サービス品質を確保することは大きな課題である。ITのライフサイクルは、ユーザ要件に見合った機器の論理設計、構築、保守運用とITビジネスによって変化する。ROI改善において、ITライフサイクルの約7割を占める、保守運用の品質をいかに高めるかが重要である。ITを導入する企業の価値を高めるために、弊社の役割としてインフラ基盤の設計・構築段階より、しっかりしたプロジェクトマネージメントを行う必要がある。事例を通してその実際をお伝えする。

【講演者略歴】 1976年 日本ユニバック株式会社(後に日本ユニシス株式会社)入社。サービス事業に従事。96年 キャリア部門のシステムエンジニアを経て、2005年 ユニアデックス株式会社へ転籍。現在に至る。

PA-4 NASAの有人宇宙開発マネージメントのすばらしさ 9/4 16:40

宇宙航空研究開発機構 プログラムマネージャ 長谷川 義幸
宇宙研究開発機構 部長 武内 信雄 

【セッション概要】 国際宇宙ステーションは米国、ロシア等世界15カ国が分担開発し、宇宙で組立て、宇宙実験を行う国際プロジェクトである。日本は実験施設「きぼう」を開発し、日本から運用し利用を推進している。世界の参加機関をとりまとめるNASAのマネージャは、優れたエンジニアで理解が早く、思考が論理的で、物事を前向きにとらえ、ストレス耐性が優れている。人望があり、先見性がある。本報告では、NASAと国際交渉をしながら学んだNASAのPMの運営の仕方に焦点をあて、リーダーシップ等を紹介する。

【講演者略歴】 ■長谷川 義幸：1976年宇宙開発事業団入社。1995年より国際宇宙ステーション日本実験棟開発に従事。現在プログラムマネージャ。■武内 信雄：1980年宇宙開発事業団入社。1990年より日本実験棟開発に従事。2008年より、安全性・信頼性推進部長。

EG-1 柔らかい仕掛けが街を救う 9/4 13:10 公共空間活用による中心市街地活性化

千葉大学大学院 工学研究科
教授 北原 理雄

【セッション概要】 全国各地で中心市街地の衰退が問題化して久しいが、有効な成果をあげている対策は殆どない。主に道路やハコモノ施設などのハード施策と販売促進などのソフト施策が実施されているが、プロジェクトでの有機的連携が不足し、活性化の切り札になり得ていない。

千葉大学大学院工学研究科、北原研究室では、過去10年に亘り、パラソルやテントなど「柔らかい仕掛け」で街に賑わいを創出し、ハード事業とソフト事業を橋渡しする試みに取り組んできた。この実証実績に基づき、プロセス構築型の「活性化プロジェクト」の可能性を探る。

【講演者略歴】 東京大学大学院修了(工学博士)。名古屋大学助手、三重大学助教授を経て、1990年から現職。市民・行政と協力して、千葉市中心市街地活性化、市川市行徳地区まちづくり、東京湾三番瀬再生などに取り組む。共著書に『公共空間の活用と賑わいまちづくり』(学芸出版社)他。

EG-2 地下鉄副都心線建設プロジェクトを振り返って 9/4 14:15 新技術の活用とコスト縮減方策

東京地下鉄株式会社 鉄道本部 改良建設部
次長 西村 高明

【セッション概要】 東京圏における鉄道網は、旧運輸大臣諮問機関である運輸政策審議会答申に基づき、各鉄道事業者が鉄道ネットワークを形成してきている。ここでは、東京地下鉄(株)が施工した答申路線地下高速鉄道13号線(通称「副都心線」)について、建設工事着手から開業に至るまでを振り返り、建設時に採用した新技術やコスト縮減方策を紹介するとともに、「人と環境にやさしい地下鉄建設」をモットーに取り組んだ環境マネジメントシステム14001に関する各施策、その他トピック的な事例を報告するものである。

【講演者略歴】 1980年帝都高速度交通営団入団。主に建設本部で、地下鉄建設の設計・施工管理に従事。その間、1987~89年、旧運輸省に出向し鉄道交通網答申に携わる。また1995~98年、鉄道総合技術研究所に出向し、トンネル設計標準を策定。2008年4月改良建設部に在籍し、現在に至る。

EG-3 建設事業プログラムの"見える化"を支援する 9/4 15:35 目標管理型予算の統合管理ツールの開発

株式会社 シーム
代表取締役 本間 克三 

【セッション概要】 国や地方で実施される公共事業プロジェクトの予算は、無駄のない行政経営を公開するために、完成日と予算額を宣言し、進捗状況を公表する「目標管理型予算」に移行している。これまで行政は、このような予算管理の行政能力(PM能力)を重視してきた訳ではないため、予算の可視化、進捗状況管理、年度毎事業費を統合管理するPM能力向上が急務となってきた。講演では、行政20年、コンサル15年の経験から、中長期の公共事業やプラント事業を複数実施している発注者のPM能力向上を目指して開発したPMツールを紹介する。

【講演者略歴】 1971~1991年建設省勤務、本省、局、事務所、出張所、公団で道路事業に従事。その後建設コンサルタント会社で道路事業の業務委託。2002年那覇在任、沖縄PM研究会代表として、行政のPM業務やPMセミナーを実施、2007年に公共事業現場のPM能力向上をめざして株式会社シーム設立。

EG-4 中国大型EPCランプサム案件、その成功と失敗から学んだこと 9/4 16:40 Win-Winを目指す

東洋エンジニアリング株式会社 海外第一プロジェクト本部
PD 越川 昌治

【セッション概要】 経済成長を続ける中国市場は、プラントメーカーにとっても大きなマーケットといえる。一方、市場の閉鎖性、特殊性から、プラントメーカーにとって、中国市場は決して安易なマーケットではない。筆者がPMとして担当した、中国大型EPCランプサムプロジェクトの、成功体験と失敗から学んだ、それらの要因を分析。本講演では、客先とWin-Winの関係を構築し、プロジェクトを成功に導くのに必要な戦略と手法、そしてPMの役割などをまとめて紹介する。

【講演者略歴】 1980年東洋エンジニアリング(株)入社、工事部、配管設計部を経て、1987年より海外プロジェクト本部に異動、現在に至る。PMとして、マレーシアのEOEGプラント、中国のAA/AEプラントを完成、現在シンガポールエチレンのJV Deputy PDを担当中。